

放射線科専攻医研修カリキュラム

1 研修目的

当科の診療域は画像診断、IVR 部門、核医学、放射線治療の4領域全てに渡っており、このいずれの領域の研修も必要である。当院は放射線科専門医試験の受験資格を得るための総合修練機関病院であり、この資格を取得するための知識と技能を身に付けることが目的である。

2 研修内容

1-2年次

- 1) 放射線診療に必要な解剖、発生、生理を理解する。
- 2) 放射線診療に必要な放射線物理や安全管理を理解する。
- 3) 画像診断の各モダリティ (CT,US,MRI,DSA,RI,PET など) の原理/特徴を理解でき、頻度の高い疾患の画像診断が出来る。
- 4) 放射線腫瘍学総論では外照射、密封小線源治療、RI 内照射療法など放射線治療の特徴を理解するとともに、がん集学的治療に占める放射線治療の役割を理解し、手術、化学療法との併用療法について理論的根拠を概説することが出来ること。
- 5) 核医学では診療用放射性医薬品について理解し、FDG-PET 臨床使用ガイドラインを理解し、核医学検査の適応とそれぞれの代表疾患の診断ができること。
- 6) IVR の基本的なカテーテル操作、手技終了後の圧迫止血を1人で安全に行えること。頻度の高い IVR についてその意義と手技について理解できる。IVR 各モダリティについてその選択や特徴を理解している。
- 7) 放射線防護について理解し医療被曝低減について患者や医療従事者に説明でき、円滑な治療が行えるよう指示できる。

ここまでを修了して、放射線科認定医試験の受験資格が取得可能である。

3年次

- 1) **Subspecialty** として診断領域を選択するものは個々の患者の総合画像診断ができ、チーム医療の担い手として、画像診断部門でコ・メディカルを含めてリーダーシップを取れること。また、他診療科医師に対して診断や鑑別診断、治療法について説明できること。
- 2) **Subspecialty** として治療を選択するものは治療に必要な放射線物理、生物の基本的知識を理解し、治療計画に応用できること。放射線腫瘍学総論では外照射、密封小線源治療、RI 内照射療法など放射線治療の実際を具体的に説明できるとともに、3次元照射法、定位放射線照射など高精度放射線治療ならびに各種分割照射法の基礎的根拠と適応について理解していること。また、がん集学的治療に占める放射線治療の役割を十分理解し、手術、化学療法並びに温熱療法との具体的な併用療法について説明できること。
- 3) IVR においては血管系 IVR の比較的頻度の高い複数の疾患について手技を実践できること。また、非血管系 IVR の代表的な手技の意義と手順を患者や医療従事者に説明できること。

この3年と当施設または他修練機関での後1年の研修をもって、放射線科専門医試験の受験資格を取得可能となる。

3 放射線科専攻医週間スケジュール

午前中は指導医のもとで主に CT,MRI,RI,PET,胃透視検査に携わる。午後は指導医のもとで主に CT,MRI,RI,PET 検査に携わるが月、水、木は適宜指導医とともに血管造影に携わる。

- ・ 毎週木曜日 午後 5 時 30 分より病理との合同症例検討会と抄読会
- ・ 毎日 午後 5 時 30 分以後、読影業務終了後より症例検討会
- ・ 毎週水曜日 午後 6 時より消化器センターと肝臓カンファレンス
- ・ 月 1 回 耳鼻科との合同カンファレンス
- ・ 月 1 回 神経放射線症例検討会
- ・ 隔月 呼吸器カンファレンス

4 専攻医研修目標到達項目

A:目標に到達

B:目標に近い

C:目標に遠い

	自己評価	指導医評価
1・2 年次		
1)解剖、発生、生理		
2)放射線物理学、安全管理		
3)モダリティ		
4)放射線腫瘍学		
5)核医学		
6)IVR		
7)放射線防護		
3 年次		
1)画像診断		
2)放射線腫瘍学		
3)IVR		